

茨木市立 穂積 小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ②我が国の言語文化に関する事項 | 良好な結果であった |
| ③A話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ④B書くこと | 良好な結果であった |
| ⑤C読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問1(1)「【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として」適切なものを選択する」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問3(2)「【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く」
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問2(2)物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の□に入る内容を書く」

分析

- ・正答率は全ての設問・領域において全国平均を上回っており、基礎基本の定着ができています。
- ・「書くこと」では、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける問題の正答率が低くなっている。文章全体の構成に着目して文章を整えたり、条件を整理して考えをまとめたりして書くことに課題が見られる。様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合う中で、読み手に自分の考えが明確に伝わるように文章を書き直すことを意識させていく必要がある。
- ・「読むこと」では、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題で、全国平均を大きく上回っている。学級文庫や学習に関連する図書をブックトラックに配置するなど、身近に本がある環境を整備し、読書習慣が向上したことは、学校図書館モデル校として積み重ねてきた実践の成果だと考えられる。
- ・「話すこと・聞くこと」では、言葉は相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題で全国平均を大きく上回っている。目的意識をもち、調べたことを発信したり、根拠をもとに考えを伝えたりする経験の中で、表現への効果について理解が深まっていると思われる。
- ・記述式問題は、他の形式に比べて無解答率が高くなっているが、全国平均を大きく下回っている。書くことへの意欲の向上は見られるが、条件を整理して考えをまとめ、制限字数に合わせて文章を書くスキルを高めていく必要がある。
- ・漢字の問題などは、これまでの積み重ねが良い結果に繋がっていると考えられる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 良好な結果であった |
| ③C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問1(1)「 1050×4 を計算する」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問2(3)「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問1(4)、問2(2)、問4(3)

分析

- ・正答率は全ての領域において全国平均を上回っており、無解答率が低くなっている。
- ・「数と計算」では、二つの数の最小公倍数を求める問題で、正答率が平均を下回っている。また、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題において無解答率が高くなっている。数を大きくみたり小さくみたりするなど、見積もりを日常生活の問題に応じて活用することに課題が見られる。
- ・「変化と関係」の問題の正答率は、他の領域に比べて全国平均との差が少なくなっている。日常の具体的な場面に対応させて割合を捉えることに課題が見られるため、図や表と数や式を相互に関連付けて理解できるようにすることが必要である。
- ・記述式問題においても、正答率が全国平均を大きく上回っており、問題解決学習、図や式、言葉で自分の考えを表現する場面が位置づけられている成果だと考えられる。思考力を高めるために、問題文や資料からその意味を読み取り、多様な考え方を練り上げて概念を生み出すことができるような授業づくりを進めていく必要がある。

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ②粒子 | 良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問1(1)「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問3(1)「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問2(4)「凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く」

分析

- ・正答率は全ての領域において全国平均を上回っており、良好な結果であった。
- ・問2(3)、問3(2)の正答率は、全国平均を大きく上回っている。実験の過程や得られた結果から明らかになったことを捉えたり、問題に対するまとめを検討したりする場面が位置づけられていると考えられる。
- ・問2(4)、問3(4)、問4(4)の正答率は、全国平均を下回っており、他の設問に比べて無解答率が高くなっていた。
- ・問2(4)の誤答は、解答類型5, 7の割合が高くなっている。自然の事物、現象から得た情報に対して疑問を持ち、新たな問いを見い出すことができるような場面を設定することが必要だと考えられる。
- ・問3(4)の誤答は、解答類型5, 6, 7の割合が高くなっている。実験で得た結果を問題の視点で分析して、解釈することや根拠を示すために表から必要な情報を使って記述することに課題が見られる。
- ・問4(4)の誤答は、解答類型6の割合が高くなっている。水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解するとともに、習得した知識を自然の事象、現象と結び付けて考えさせることが必要である。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

正答率は国語、算数ともに全国平均を上回っており、良好な結果が見られる。理科の平均正答率も前回より上回っている。特に国語の正答率が伸びており、無解答率も減少傾向が続いている。問題に粘り強く向き合う力や考えを表現しようとする意欲の向上によると思われる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語は高位層の割合が高くなり、低位層の割合が低くなったことから全体的に向上していることがわかる。一方、算数は高位層、低位層の割合がともに高くなっていることから学力の二極化の傾向が見られる。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

1. 基礎的な学力の定着に向けて

① ほづみっ子タイムやモジュール学習の充実

- ・四則計算や漢字、ローマ字の定着、言葉の力を高めるために計画的、系統的に学習活動を進める。

② 読書活動の充実

- ・毎週木曜日の朝の読書タイムや年2回の読書週間の取り組みをさらに充実させる。
- ・スクールサポーターやボランティアの方による読み聞かせを行い、本への興味関心を高める。
- ・学級文庫の定期的な入れ替えや各学年必読書の選定など、読書環境を整える。本を読む機会を確実にとることで、「本を読む」習慣をつけさせ、文法や語彙力、表現力を高めていく。

2. 学習指導の充実

① 主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり

- ・自他の考えを多面的、多角的に捉え、柔軟な考えをもてるように学習の場を工夫し、授業者は対話を通して学びを深められるようコーディネートしていく。
- ・学習した内容を自分の言葉で表現する「振り返り」の時間を設定し、主体的な学びを促す。
- ・研究授業や研修、教員間での授業参観を行い、授業力、資質向上を図る。「解いてみたい」「考えてみたい」と自ら学習課題を見出せるような授業展開の工夫、改善を図る。

② 学校図書館を活用した授業づくり

- ・スクールサポーターと連携し、さまざまな教科学習において、課題解決のために図書を活用する機会を増やし、資料から必要な情報を取り出し、目的を意識してまとめる力を高める。
- ・同じ作者やテーマなど関連する図書の並行読書を進め、文章を読み取る力を高める。

③ 自分の考えを表現する力を高める授業づくり

- ・日記や短作文など、日常的に「書く」取り組みを取り入れる。学年ごとに、学習内容や発達段階に応じて取り組むテーマや題材を設定し、継続して取り組む。文章を読み返す習慣をつけ、自分で推敲できる力をつけていく。
- ・問題解決学習において、既習事項をどのように活用するか見通しを持ち、自力解決する時間を確保する。
- ・話型や文型例を提示し、伝える力、書く力など自分の考えを様々な表現方法でまとめられる力を高めていく。校内掲示板を活用して「きらりノート」や学習成果物の紹介を行う。

3. 家庭・地域、保幼小中の連携

① 学習規律の定着

- ・年度初めに学年だよりで「ほづみっ子学習のルール」を掲載し、家庭学習の充実や持ち物の準備など、学習規律の定着に向けて発信する。
- ・「生活チェック週間」を毎学期実施し、家庭学習を重点的に取り組む期間として、家庭や子どもたちに意識を促す。

② 地域学習の充実

- ・昔遊びやチューリップ交流会など地域の方と関わる機会や校区内見学、体験活動などの充実を図る。

③ 保幼小中の連携会議の充実

- ・出前授業や学校、児童会行事に関わる取り組みなど交流を図る。